

會津藩奴隊プロフィール

江戸時代、参勤交代が定められて以来、諸大名は行列を仕立てて、江戸と地方を往復しました。各大名は、民衆が遠くからこの行列を見ても、どこの藩のものかがすぐ分かるよう、派手な飾りのついた長い槍や、大きな箱を持った家来衆をしたがえました。この毛槍や挟箱（はさみばこ）を持っていたのが奴衆（やっこしゅう）です。

その人数は領地の大きさや家格によって決められており、会津藩は450人とも伝えられています。これらの奴衆は、長い参勤交代の道中、沿道の民衆や大名の目を楽しませるために、毛槍や傘などを振り回し、独特の歩き方を生み出しました。

このような芸は「奴振り」と呼ばれ、現在の踊りのモデルとなっております。

會津藩奴隊は地元会津はもとより、県外各地へと活動の場を広げ、先人がのこした歴史・文化を継承していくと同時に、会津のよさや会津の心意気もPRしながら今後の活動を展開していきたいと考えています。